

ほっかいどう

かいはつグラフ

北海道開発局広報誌

Vol.25
2001 季刊



特集 ● ーTとこれからの北海道

事業紹介／水の恵み
国営かんがい排水事業

最新線／もって利用しやすい空港に
新千歳空港

北国賦／いのちの声・風のつた
谷目 基さん

開発事業のあゆみ／我が国最初の西洋式馬車道
札幌本道

ピックアップ／外国人の視点から見た北海道の国際化
小形無人ヘリコプターによる情報収集システムを導入

ちよつひつぎ...道の駅／スポーツのできる駅

北海道開発局グラフ

通巻第二十五号

二〇〇一年(平成十三年)六月

監修

北海道開発局広報室

発行

財団法人北海道開発協会

〒001-0001 札幌市北区北11条西2丁目 セントラル札幌北ビル
☎011-7009521 FAX 011-7009525

開発の日々の ひとコマ



先代の豊平橋 (大正13年8月完成)

市民に愛された名橋

現在の豊平橋の位置に初めて橋がかけられたのは、明治初期の頃でした。その後洪水による流失や、交通量の増加に伴う架け替えが幾度となく繰り返され、大正13年、先代の豊平橋が架けられました。

先代の橋は、優美な姿で、札幌市民のみならず北海道民に長い間親しまれ、札幌のランドマーク的存在でした。釧路の幣舞橋、旭川の旭橋とともに、北海道3大名橋の一つに数えられていたほどです。

しかし、交通量や交通荷重の増加による国道36号の拡幅に伴い、昭和41年、先代豊平橋は40数年の役割を終え、現在の橋に架け替えられたのです。

表紙 新千歳空港。

昭和63年7月に開港した新千歳空港。その利用者は、年間1800万人にものほります。

北海道開発局では、航空機の安全な離着陸はもちろん、北海道の玄関口として、人々に親しまれ、快適に利用できる空港をめざし、景観にも配慮して整備を進めています。

(本文8Pもあわせてご覧下さい)

ITとこれからの北海道



政府は昨年11月のIT戦略会議において5年以内に世界最先端のIT国家となることを目指した「IT基本戦略」を定め、さらに本年1月に「e-Japan戦略」とそれに基づく「e-Japan重点計画」を発表しました。

北海道においても、学識経験者、経済界、市町村関係者などの御協力を得て北海道開発局を始めとする国の4出先機関及び北海道の5機関が連携・協力してIT施策を推進するための指針となる「DO IT 5」を昨年9月に立ち上げ、本年4月に推進プランを取りまとめました。

北海道開発局としても、平成12年度から民生、産業面でのITの推進を図るための調査として4つの基礎的な実証実験を進めています。また、河川、道路の各事業でも光ファイバーを利用した事業が進んでいます。

今回の開発グラフは、そのような動きの中、先の「DO IT 5」においてワーキンググループの座長を務めていただいた、北海道大学の山本教授の寄稿と北海道開発局での様々な取組を御紹介していきます。

情報ネットワークで作る北海道の元気
北海道大学大学院工学研究科 山本 強



情報通信技術いわゆるITが21世紀の産業経済の方向性を決定したといえる。ITが可能にするコミュニケーションの高速化は世界規模で経済活動のスタイルを変えることになる。ITが北海道の再生のために極めて重要な役割を果たすと期待されているが、ITに期待しているのは北海道だけではない。全ての地域がITに未来があると信じている。しかし、ITをやらないと遅れるからITを推進するという説明はITの自己目的化に過ぎない。北海道はITで何をやるか、それを説明する必要があるのではないだろうか。

ITで増幅する北海道産業

北海道の地域特性は情報ネットワークを必要としている。北海道の主要産業である観光は今や情報産業だといっても過言ではない。

これまでは雄大な風景や新鮮な食材を訴えるだけで観光客が来てくれたかも知れないが、旅行者側がIT化で賢くなってくると必要な時的確な情報を送り込む情報サービスを持たなければ、せっかくの資源が活用できなくなるのである。北海道は幸いなことに素材としての観光資源には恵まれている。これをITで増幅する体制を早く作るべきである。同じことは農業や水産業にも言えるだろう。食料を大量かつ安価に提供するというモデルはもはや通用しない。北海道産の信頼感や鮮度の情報をネットワーク経由で国内外に正しく伝えるためにネットワークインフラと技術が必要なのである。

道産ITへの期待

北海道はITのある分野では世界的に見ても第一線にある、自前のIT技術を持った地域なのである。そういった技術開発を推進し、それをいち早く北海道の非IT産業に使用して差別化する戦略がある。ITは速度である。短期間でサービスを開始できること、それがIT導入の意味でもある。北海道内にIT技術開発基盤があることは北海道IT

の実現速度を速める効果がある。今のところ、IT分野の技術系企業は札幌圏に集約されている。それを道内他地域に分散させる考え方もあるが、地域の役割分担の一つとして札幌圏ITを考え、他地域と連携して北海道全体を強くする戦略が重要ではないだろうか。ITをやる札幌圏、それ以外の地域はITを使って産業を活性化するという割り切りも必要である。

北海道のネットワークインフラ構築

北海道の地理的状況を考慮するとネットワーク構築に関して北海道には相当なハンディキャップがある。北海道のネットワークインフラ方式は首都圏や本州の他地域とはかなり違ってくるはずである。速度だけでなく過疎地でも可能なアクセス網方式を推進しなければ、後で莫大なインフラ維持コストを支払い続けなければならない。

また、サービスを提供するのは民間事業者であるとしても、事業者がインフラ構築をしたくなる理由を作る責任は住民や行政側にある。例えば、学校にインターネッ

トを導入するのであれば、それに必要な通信容量を定義して、北海道内に発生する教育用ネットワーク需要を外部発注するという手段もある。安定した教育ネットワーク需要があるならば、通信事業者はそれを根拠にインフラ投資を行うことができるし、余剰帯域は地域住民や企業に提供される。

もう一つ、国の公約を楯にして行政が構築したネットワークを企業や住民に開放するという作戦もある。国のIT基本戦略には、「1年内に全国民が安価な常時接続インターネットを使用できる環境整備を行う」とある。その公約の期限は2001年末である。その時にそうならない地域があったら、それは国の公約違反になる。その時には行政系ネットワークの一部を民間ネットワークに提供するのには、民業の圧迫にはならない。ここで開放するのは必要な最低限の通信速度で良い。本当に超高速ネットワークの必要があるならば、それはやはり民間事業として行うべきだろう。

したたかなIT化戦略を

マクロな視点で見た北海道の特

殊性として官依存体質が言われるが、それを一方的に悪い方に見ては行けない。北海道に新しい産業や社会基盤を作ることには異を唱える人がいる訳がない。問題は、投資が有効に機能しているかどうかである。逆に官依存型の経済構造を上手く使うと、北海道をネットワーク先進地域にすることも出来る。これから実用化されるといわれる電子商取引や電子決済を自治体が率先して、「正式」に使う事ではないだろうか？ 段階的に電子決済を使う宣言をするだけで道内経済は画期的に情報化せざるを得なくなる。それによって新しい形の情報処理産業が北海道に立地する必然性が出てくる。何の戦略もなく、情報機器の導入を進めただけで北海道の産業が発展すると思うのはあまりに素朴である。

今、北海道を取り巻く環境は最悪だといわれる。しかし、革新的な技術や仕組みは逆境でこそ生まれるものである。出かかっている元気の芽を育てるためにも、北海道はしたたかに行動しなければならぬ。

北海道開発局では、北海道総合開発計画の推進に必要な調査を実施しています。平成12年度からは民生、産業面でのITの推進を図るため、次の4つの基礎的な実証実験を進めています。

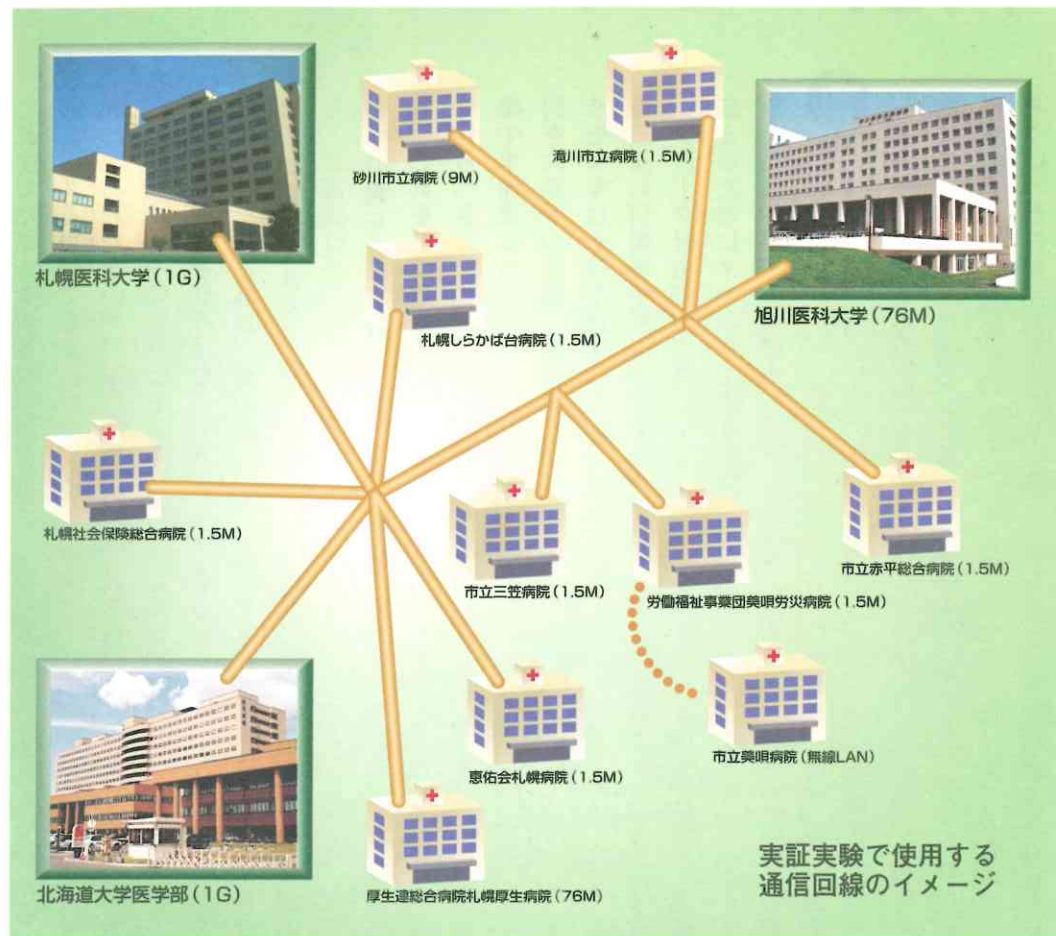
1 北海道広域医療情報高速ネットワーク調査

も行うことが可能なことを現実に実証することとしています。また、併せて各医療分野ごとの必要な通信環境などを調査検証して、将来の医療情報ネットワークのあり方を検討することとしています。

2 札幌圏研究機関統合データベース構築モデル事業

最近の情報技術の飛躍的な発展により、様々な情報を簡便に入手することが可能となる情報のネットワーク化が進んでいます。このような中でこれからの北海道産業には学術研究機関での成果を始めとする先進的な技術や情報、さらには人材と積極的にコミットメントする中でいかに創造的な企業活動を展開し、新たな産業を構築していくかが問われています。そのため基本的な仕組みづくりとして、道内の研究機関が所有する研究情報をよりオープンな形で利用できるデータベースの構築と利用しやすい環境の整備が求められています。

今回の実証試験では北大先端科学研究センター等、札幌圏の5研究機関の協力をいただき、研究内



待っています。

3 北海道地域IXモデル構築調査

インターネットが広く普及し、数多くの便利なサービスがインターネットを通じて利用できる時代となってきました。インターネットを利用した情報の流通は年々増大しています。インターネットはネットワーク同士の集合体ででき

容や研究者の情報をインターネットの次世代言語であるXML化する事で、これまで各研究機関単独でなければなかなか利用が難しかった情報を統合的に検索、利用することが可能となります。また本モデル事業で構築したデータベースを各研究機関が自在に活用できる環境も併せて整備しており、札幌圏における研究開発機能の向上にもつながるものと期待

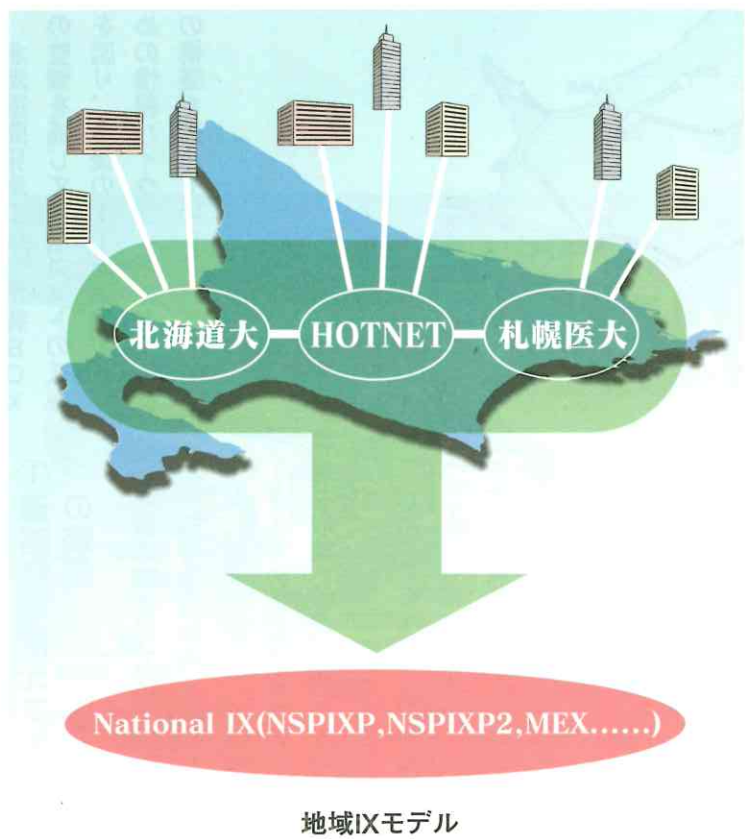
ています。インターネットが広く普及し、数多くの便利なサービスがインターネットを通じて利用できる時代となってきました。インターネットを利用した情報の流通は年々増大しています。インターネットはネットワーク同士の集合体ででき

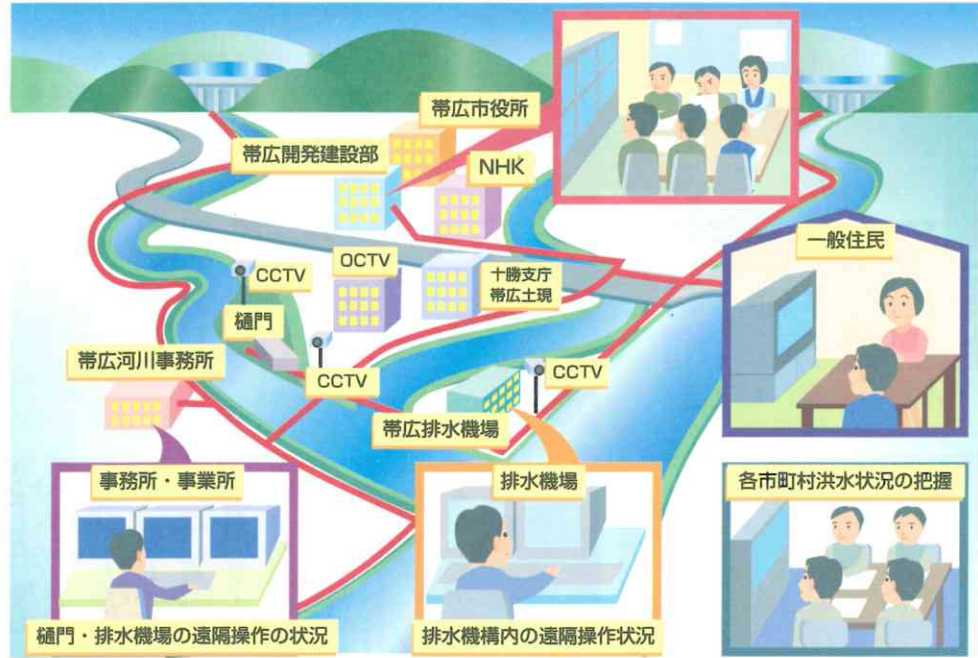
4 札幌圏高速ネットワーク空間構築モデル事業

札幌の情報産業は「渋谷ピットバレー」、「福岡D2K」とともに「サッポロバレー」と呼ばれ、全

道内に地域での情報の交換所である地域IXを設置することであり、地域IXの設置が北海道におけるインターネット環境の向上とデータセンターに代表される今後の情報産業のインフラ整備にもつながることが期待できます。今回の実証試験ではモデル的に地域IXを設置して実際の運用にかかる技術的課題や社会的課題の所在等についての検証を行うこととしています。

今回の実証試験では高度通信ネットワーク社会で実現される超高速インターネット網を構築して、サッポロバレーの情報産業の持続的発展を図るために研究開発機能の一層の集積と高度化を実証することを目的としています。内容としては、デジタル情報技術を活用して、札幌周辺に分散する研究開発エリアをメガピットクラスの高速度ネットワークで結合し、遠隔同時多地点間の高密度研究開発実験環境を構築するものです。これにより高画質の動画像データを始めとする巨大なデータ群を遅延、欠損なく伝送することが可能となりこれらのデータのやり取りを前提とする研究・開発環境が整備されることとなります。





河川管理用ファイバー整備イメージ

災害時よりもより平常時から有効に機能する情報体制を確立するために、河川及び道路管理用の光ファイバー網を有機的に連携・活

②災害時における防災情報体制の強化
更に、効率的な集中管理体制の確立・省人化を目的として樋門・排水機場等の遠隔操作について検討を行っています。

①河川管理の高度情報化の推進
洪水時における水位・流量や氾濫の状況を把握し、排水機場・救急排水施設・樋門・水門等の稼働状況や渇水時の河川の流況、水質事故発生時の油等の流下状況の把握、さらに、高水敷の不法占用・ゴミの不法投棄などの監視等を目的として、平成13年度末までに十勝大橋、札内橋をはじめ61カ所に空間監視用（可動式）及び固定のCCTVカメラを設置するとともに、十勝川・札内川・音更川・利別川・帯広川・途別川・猿別川・牛首別川・十勝川の9河川で約140kmの光ケーブルを敷設する予定です。

また、現在、北海道との画像情報の共有化（売買川分水路事業）、NHKへの画像情報の提供について協議を進めています。今後は、関係自治体やケーブルテレビ等への画像情報の提供についても検討を進める予定です。

③地域住民への危機管理意識の向上・河川事業の啓蒙
地域住民への危機管理意識の向上及び河川事業の啓蒙を目的とした情報の提供方法として、地域住民が集まる主要な場所への河川情報表示板等の設置やインターネット等により地域住民や関係機関等へCCTV画像、水位・雨量、レバー等の情報を提供するシステムの構築について今後検討を進める予定です。

凡 例	
平成12年度末まで	——
計画路線	——
支庁所在地	○



	延長	整備率
平成12年度末まで	1,618km	58%
全体計画	2,800km	100%

北海道開発局では、情報BOXの整備を通じて通信コストの低減を図り、今後のITを活用するための情報ハイウェイネットワークの構築を進めています。

②情報ハイウェイネットワークの構築
情報ハイウェイネットワークとは、道内主要都市を光ファイバーで結ぶことにより、ITV（監視カメラ）や情報コンセンタ等からの情報をいち早く收拾することによる道路管理の効率化・高度化を図り、VICS（道路交通情報通信システム）や寒冷地AHS（走

①道路管理用光ファイバーの整備
北海道開発局では、現在、NTT回線や多重無線を使用して、ITV（監視カメラ）や気象テレメータ等の道路管理機器からの情報を収集して道路管理を行っています。しかし、近年の情報通信技術（IT）の発展に伴い、刻々と変化する道路情報をリアルタイムで収集するなど、道路管理の高度化・効率化が求められています。このため、北海道開発局では、平成8年度から、大容量・高速通信を可能とする「道路管理用光ファイバー」の整備を進めています。

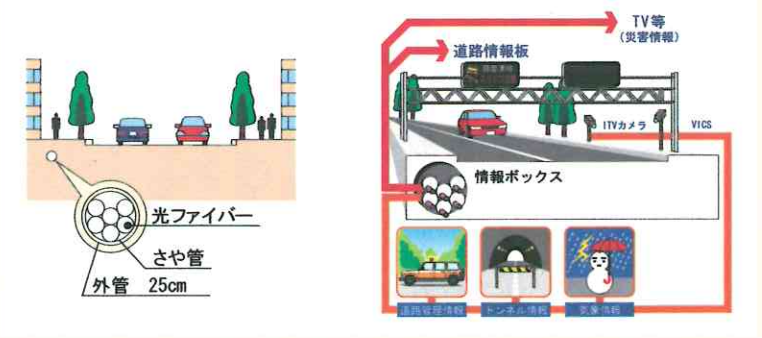
行支援システム）の研究開発、ITS（高度道路交通システム）を推進することなどを指すものです。このうち、一般道路利用者への道路情報の提供については、すでにインターネットによる道内主要幹線の道路情報（ITV画像、気象情報）の提供を実施しています。北海道開発局では、情報ハイウェイネットワークの構築に向けて、道路管理用光ケーブルの早期整備を進め、IT社会に対応した情報通信技術を有効に活用し、道路管理の効率化、道路情報の充実化はもとより、家庭の情報化、遠隔医療・教育、新ビジネスの創出などを支援していきます。



一般国道40号剣淵町剣淵情報ボックス工事

「情報BOXとは」

情報BOXとは、道路管理用光ファイバーの収容空間で、地下に埋設された直径250mmの円形の管路のことです。中には、それぞれの光ファイバーを収める数本のさや管を設置していますが、当面道路管理用として使用していない予備のさや管を対象に、地元自治体・民間事業者等へ開放する（占用を認める）ことにより、民間における光ファイバー網の早期整備を支援することとしています。



道の駅

道の駅でスポーツを楽しもう!

さあ、待ちに待ったアウトドアシーズンの到来ですね。今回ご紹介するのは、手ぶらで出かけてもサイクリングやパークゴルフが楽しめる道の駅。豊かな大自然のなかでのスポーツは、じつに爽快そのものです。

愛ランド湧別

【国道238号 湧別町】

家族みんなが楽しめる湖畔のアウトドアスポット

サロマ湖畔に面した小高い丘の上にある道の駅「愛ランド湧別」は、遊園地「ファミリー愛ランドYOU」が隣接しています。この園内にはスピード感のあるエキサイティングな乗り物からチビッコも安心の遊具まで揃い、さらにパークゴルフとバターゴルフのコースもあり、家族みんなで一日いっぱい遊べるレジャー施設です。中でも、9ホールのパークゴルフとバターゴルフは家族みんなで手軽にプレイできると人気です。どちらも管理棟で道具を借りて(9ホール1周、道具込みで300円)、思う存分楽しんでください。また、湖畔に続く「いこいの森」では、森林浴を楽しみながら、まるで海のように広がるサロマ湖を一望でき、心身共にリフレッシュできます。

この道の駅のレストランの一番人気は、湧別の特産品のホタテや海の幸がたっぷり入った「オホーツクラーメン」900円。ボリュームたっぷりの「ほたて丼」850円もオススメです。地場産品販売コーナーでは地元で取れた貝柱の薫製や貝柱のチップス、オホーツクの海水100%から手塩にかけて作られた自然塩(110g400円)もお土産によく売れるそうです。



道の駅の隣が遊園地。すぐ背後はサロマ湖



海拔100mの観覧車からのサロマ湖の眺めは最高



湖畔沿いの「いこいの森」。サロマ湖は夕景の名所としても有名



公園内にあるパークゴルフとバターゴルフのコース

さるふつ公園

【国道238号 猿払村】

美しい海と牧場に囲まれた最北の駅でスポーツ



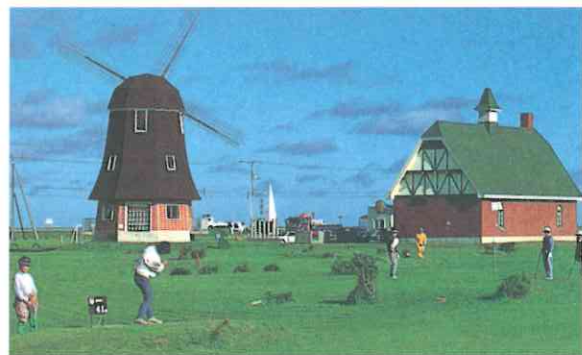
村営牧場の奥に見える「ホテルさるふつふるさとの家」

オホーツク沿岸を走る国道238号沿いを北へ北へと向かうと、雄大な海と広大な原野に囲まれた日本最北端の道の駅が見えてきます。ここは、猿払村村営牧場の一角にある「さるふつ公園」内に建つ道の駅で、駅舎となっているサイクリングターミナルほか、



サイクリングターミナルで自転車やパークゴルフの受付を。利用時間は共に9時～17時。貸し自転車は4時間以内で大人300円・中学生200円・子供100円

公園内にあるパークゴルフとバターゴルフのコース



公園内にあるパークゴルフとバターゴルフのコース

泉質自慢の温泉やホテルも隣接し、温泉、食事、宿泊も満喫できる遊びのスポットとなっています。サイクリングターミナルには子供から大人までの各サイズのマウンテンバイクが用意され、村営牧場の中を一周するコース(4.8キロ)と隣町浜頓別を結ぶ32.5キロの2コースがあります。この自転車道を走ると、緑の大地で牛がのんびり草を食む風景や美しい湖沼など、豊かな自然を存分に満喫できます。また、公園内には使用料無料のパークゴルフ場もあり、用具は一式100円で貸し出していますから、手ぶらで来て大丈夫。海と空と大地が一つにとけあったような美しい風景のなかでのプレイは最高です。



売店でひときわ目を引くホタテのコーナー。天然ほたての風味をそのまま残した「ソフト貝柱」は猿払だけのオリジナル人気商品。天然冷凍ほたて「玉冷」は刺身で食べると絶品

さらに、猿払と言えば超一級品として知られる天然ホタテが有名。ホテル内のレストラン「風雪」で味わえる名物料理「ほたて鍋」は、天然もののホタテとさるふつ牛乳の絶妙なバランスに大満足間違いなしです。

☎01635-2-2311

「道の駅スタンプラリー2001」いよいよスタート! 実施期間2001年4月21日(土)～11月4日(日) 完全制覇賞は2002年3月31日(日)まで 毎年好評のスタンプラリーが4月21日からスタートしています。北海道の70カ所の道の駅のスタンプを7個以上集めると、抽選で各地の特産品や豪華商品が当たります。完全制覇賞もありますのでチャレンジしてみてください。各道の駅でラリー帳とスタンプを用意してお待ちしています。さらに詳しい情報は、北海道開発局のホームページでもご覧いただけます。 <http://www.hkd.mlit.go.jp>



もっと利用しやすい空港に～新千歳空港～

札幌開発建設部 千歳空港建設事業所 第2工務係長 池上 啓一

しと 最・前・線

開発局と地域を結び 主役はまさに“ひと” 地域の人々と一緒に考え、行動する その最前線に立つ姿を紹介します

北海道の空の玄関口、新千歳空港。年間の利用客は1800万人にもなり、全国で5位となっています。現在、混雑を緩和してもっと快適に利用できるよう、整備を進めているところです。



北側の連絡橋です。外観はほぼ完成しています。

私は昨年、11年ぶりにこの事業所に赴任してきました。実は、新千歳空港の建設当時も、ここで勤務していたのです。まだ広大な土地が広がるばかりだった時から、供用を開始するまで建設に携わっていたので、新千歳空港への思い入れは、格別なものがあります。

現在、新千歳空港では、ターミナルビル前面の改良整備を進めています。これは、年々増加する利用者に対応し、より利用しやすい快適な空港にしようとするものです。

まず、ターミナルビル前の道路が、人の乗り降りでも混雑しているため、乗降車線を1車線増やしました。これに伴い、既存の標識についても、標識の内容、色、文字の大きさなどが、初めて空港に来られる方にもわかりやすく、



工事時間を短くするために、エスカレーターを組み立ててから搬入します。

見やすいものになっているかなどを見直す事になりました。

また、ビルから駐車場への連絡橋が、現在は中央に1つしかないのですが、これを南と北に1つずつ新設します。連絡橋には、エレベーターと、エスカレーターもそれぞれ設置します。これらは全て、バリアフリーの観点から作られていますので、体の不自由な方、荷物の多い方でも移動が楽になると思います。

私を含め事業所の担当者は、これらの工事の現場に立ち会うという業務があるのですが、工事は、安全性を考えると昼間の混雑の中ではできないので、乗客がいなくなった夜遅くから始まります。最終便の到着後、乗客や、空港の従業員が全て帰った午後11時から始め、翌朝午前6時半頃には終わらなければなりません。昼間の工事に比べ、夜間の工事は緊張するもので、夜間に現場へ行かなければならないことで、生活リズムが狂ってしまいがちなので、体調を崩さないよう、普段から気を配っています。

ターミナルビル前のこの工事は、今年中に完了を予定しています。使いやすくなる新千歳空港を、楽しみにしててください。

空から...

「スカイスポーツフェア」で、 スカイスポーツの楽しさを体験してみませんか？

今年の「北海道スカイスポーツフェア」は、全国展開している「スカイ・レジャー・ジャパン」と一緒に行われます。例年にない大きなデモフライトや曲技飛行、空の感動を体験できる体験コーナー、子供の航空工作教室、そしてお楽しみ抽選会など、盛りだくさんの内容で、スカイスポーツの楽しさを伝えます。

スカイ・レジャー・ジャパン '01イン石狩 —北海道スカイスポーツフェアイン石狩—

開催日時 大会：平成13年7月22日（日）
公開練習：平成13年7月21日（土）
会場 石狩市美登位石狩川右岸河川敷
問い合わせ (社)北海道スカイスポーツ協会
電話 (011) 232-4347



民安ダム

国営かんがい排水事業 天塩沿岸地区

この地区では、大型酪農経営を指向していますが、粗飼料の生産基盤が脆弱であることや、恒常的な用水不足であることなどの課題があります。
このため、畑地用水の確保と用排水施設の整備を行うことにより、生産性の向上等をはかります。
水源となる民安ダムは、平成12、13年度に試験堰水を行い、平成14年度に完成する予定です。



落合ダム

国営かんがい排水事業 北後志地区

この地区は、後志支庁の北部に広がる野菜畑作地帯です。5～9月の降水量が少なく、用水不足が営農の大きな障害になっています。
この用水不足に対応するために、落合ダムの建設と、用水路の整備を行っています。本地区は、落合ダムの試験堰水等を経て、平成13年度に完了する予定です。



うすら 鶉ダム

国営かんがい排水事業 厚沢部川地区

この地区では、古くから米作が行われています。また、厚沢部町は、メークイン発祥の地でもあります。水田の用水の改良と、畑地かんがいのため、鶉ダムの建設、用水路・排水路の整備を進めてきました。このダムは工事を終え、平成12年に完成し、現在試験堰水が行われています。この試験堰水を終了し、平成13年度に事業完了する予定です。



試験堰水…完成したダムに実際に水を貯めてみて、ダム本体やその周辺に異常や問題がないかを調べるもの。

水の恵み

待望の水源完成間近—国営かんがい排水事業—

北海道は、全国の農地の約4分の1にあたる120万haの農地を有しており、日本にとって、重要な食料供給の場であるといえます。北海道開発局では、農業に欠かせない水や土地の整備など、さまざまな面から北海道農業を支援する農業農村整備事業を行っています。
農業用ダムや用排水路の建設などの、かんがい排水事業もそのうちの一つ。水をコントロールすることは、農業にとって非常に重要なことなのです。今回は、平成13年度に完成する3つの農業用ダムと、その役割を御紹介します。



農地の保安全管理
居住者の生命や財産を守るための農地防災と施設管理



農村の整備
快適な生活環境と生産基盤の整備

水は、農作物の育成に大きな影響を与えます。安定した農業のためには、水が必要なきときにはいつでも使え、また余分なときには排水できることが求められています。農地に水を引く「かんがい」と、大雨や地下水など、余分な水を排除する「排水」。これらの機能を充実させるのが、かんがい排水事業です。
北海道開発局が実施する国営かんがい排水事業では、いつでも安定して水を供給できるように、ダムを造り、そのダ

農業農村整備事業とは

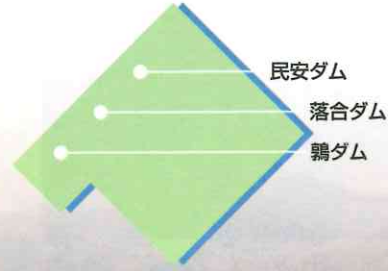


農業生産基盤整備
土地・水等の資源の確保を行い農業の生産性を高める

用排水施設の整備
かんがい排水事業

農地の整備

ムから水を畑に送る用水路などを整備します。また、水が余分なときにはこのダムで調整ができ、さらに、水をすくいに排除できるよう、排水路などの整備もします。こうして水を農産物が生育しやすいようにコントロールすることによって、生産性の向上と、農産物の品質の向上を図るのです。
平成13年には、北海道の水田・畑地・牧草地域において実施している3つの地区の水源地が完成します。



民安ダム
落合ダム
鶉ダム

鶉ダム



北国賦

いのちの声・風のうた

ストリートオルガン制作者
谷目 基



「森から聞こえる自然の音が私のオルガン作りの先生」と、谷目さん

目に見えない風だけど、いろんないのちの、たくさんの想いが、風に込められているのが感じられます。

僕も、そんな風の声を聴き逃さないよう、感性の扉を開け放って、日々を静かに暮らしていこうと思っています。



Profile
谷目 基 Motoki Tanime

昭和42年、函館市生まれ。飛騨・高山で木工とからくり人形の技術を学び、山梨のパイプオルガン工房でオルガン製作を学ぶ。平成7年、厚沢部町中館の森に手回しオルガン製作工房「ハレル研究所」をつくり、オルガン製作を始める。製作したオルガンは、函館元町の「ギャラリー村岡」、道の駅「にしおこっぺ花夢」ほか道内各地に置かれている



大地に、遠くから新しい風が吹き訪れるように、地域にいろいろな所から風のように人々が訪れ、土地の人々と交わっていく…そんな風と土との交流が、「風土」というものを形作っていくのだなあと、最近強く感じるようになってきました。

そんな想いを抱くようになったのは、たぶん、何かを求めてあちこちを風のようにさまよっていた自分が、何かを見つけて、この地に根をおろして、土の人に変わりつつあるからなのかもしれません。

みつけた「なにか」は、うまく言葉で表せないで、僕を作るオルガンのなかに、風のメッセージとして込めているつもりです。

ハンドルを廻して、流れ出すメロディーの風の中に、「なにか」を感じてくれる人が一人でもいてくれたら、こんなうれしいことはありません。

日常の暮らしの中で、ちいさな風の音がとくから聞こえてきたら、どうか耳を傾けてみてくださいね。

ハンドルを廻すと、ふいごが動き出して風を作り出し、その風が木でできた笛をならし、メロディが流れ出す…。手廻しオルガンという楽器を、みなさんはどこで見かけたことはないでしょうか。

楽器といっても決して高尚なものではありません。だれでもハンドルを廻すだけで、愉快的音楽がたのしめる、いたって気軽な木の箱です。僕はそんな、木でできた楽器を作る仕事をしています。

道南の、厚沢部町にオルガン工房を構えて、7回目の春を迎えました。人口5千人ほどの小さな町ですが、豊かな自然と、優しくてゆかいな町の人々に支えられて、たのしく毎日を暮らしています。

「道南地方ってね、ブナや五葉松のような、本州の植物の北限であったり、北海道の植物の南限でもあったりで、北から南からと入り混じって、みんないっしょになって仲良く生きているんだわ。鳥もそうだし、人間もそうだね。いろんなのがいて、おもしろいっしょ。」

「いろんな」のひとりの僕もこつくりうなずきます。



我が国最初の西洋式馬車道—札幌本道— ～函館～森・・・室蘭～札幌～



史跡 森橋橋跡

明治6年に完成した、全長255mの森橋です。室蘭との往復に使われた波止場でしたが、現在は朽ち果てた橋脚材が数十本残っているのみとなっています。



ホレス・ケプロン

明治4年に日本に招へいされた当時、米農務長官でした。

赤松並木 (函館市桔梗町～七飯町字峠下の約14km)

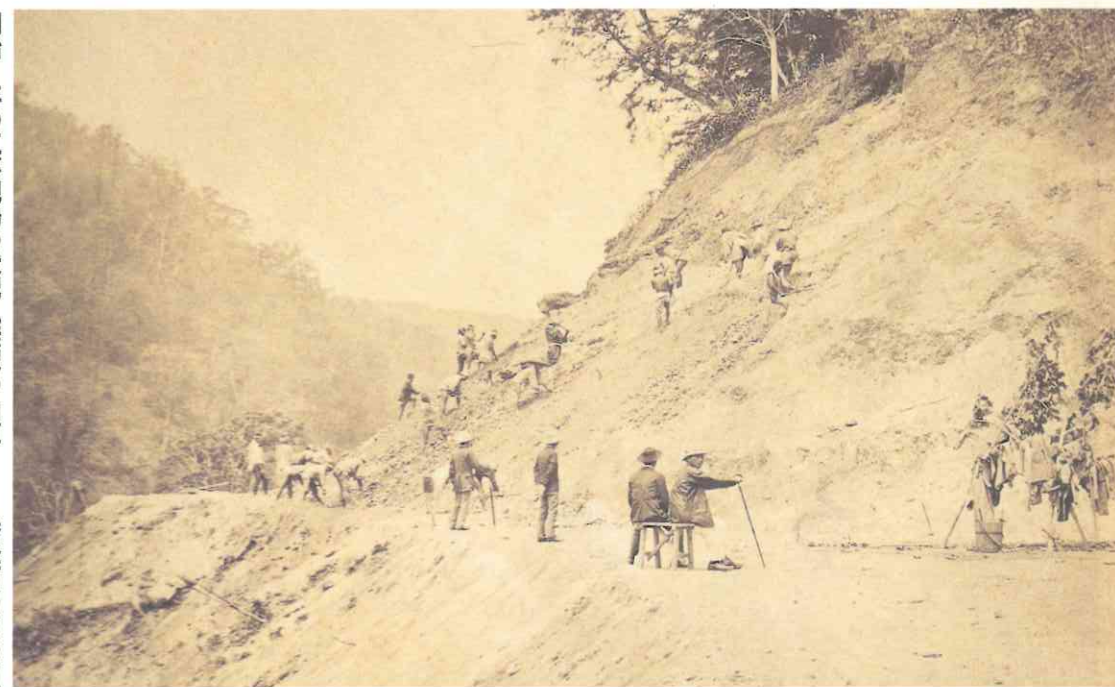
明治9年に明治天皇が七重勲業課試験場に行幸されたのを記念して札幌本道沿いに赤松が移植されました。その後、当該区間が昭和61年に「日本の道100選」に選ばれました。



現「赤松並木」



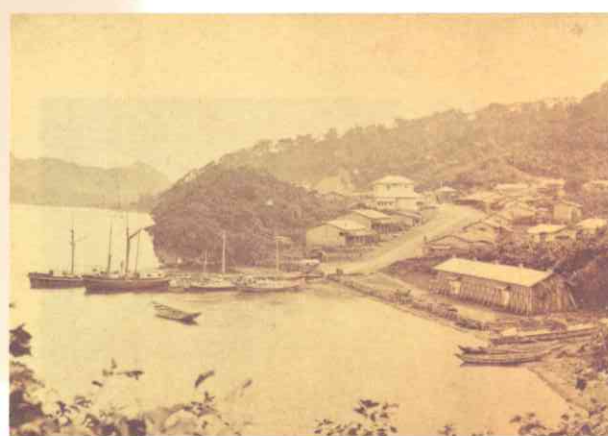
明治5年の工事現場の状況(無沢の山道749番石切頭)の図(現在の無沢峠(旧国道5号)付近)と思われる場所です。



沿道に赤松が立ち並び、「日本の道100選」にも選ばれている「赤松並木」を含む一般国道5号の一部(函館市～森町間)と、室蘭港から札幌市へと向かう一般国道36号は、建設された当時、「札幌本道」と呼ばれていました。

当時の本州との連絡の要となっていた函館から、北海道開拓の中心都市として建設された札幌までを結ぶこの道は、招へいされた米国人技術者の協力によって、我が国最初の西洋式馬車道として完成したのです。

明治初期の室蘭港
函館～札幌を結ぶ札幌本道のうち、室蘭～森間は、海路をとることにになりました。室蘭港の整備は、この札幌本道の建設を機にはじまったのです。



本府札幌へ通じる道の建設

明治2年、北海道開拓を目的として、東京には開拓使が、函館には開拓史出張所が設置されました。それに伴い北海道開拓の首府とも言える本府札幌の建設が明治2年末に着手され、明治4年春には本格的に工事が始められました。そして、この本府札幌の建設と同時に、函館と札幌とを結ぶ道路の開削が急務となったのです。

そこで、外国の優れた技術を導入して北海道開拓を進めることとなり、明治4年にホレス・ケプロン(当時米農務長官)をはじめ、3人の米国人が御雇教師として招へいされました。

日本初のマカダム道路

札幌本道は、物資の大量輸送に耐えられる馬車道にする必要がありました。そこで、マカダム道路(砂石を敷いた路の意)とすべきとのホレス・ケプロンの提案に基づき、我が国最初の西洋式馬車道が作られることとなりました。

馬車が通るため、道路幅は両側に側溝を設けて約10間(18.2m)と幅広く、砂利の厚さが平均1尺2寸(36cm)、道路の高低の勾配もおおよそ100尺に1尺の割合と、ゆるやかであったとされています。しかし、中には幌別～登別間の蘭法華のように、火薬を用いて岩を破壊して開削した難工事区間が存在し、100尺に5尺以上の勾配があったと

されています。

建設にあたっては、全国各地から人夫が集められました。道路建設中の病人及び死亡者が多かったことから、工事は相当過酷なものであったとされています。

札幌本道は、北海道の大動脈ともいえる重要な道路として、明治5年5月に着手されて、わずか1年余り後の明治6年6月に完成しました。

生活を支える道路

北海道開拓を目的として建設された「札幌本道」は、現在でも函館市から長万部町、小樽市を経由して札幌市に至る一般国道5号の一部として、また、室蘭港から新千歳空港付近を経由して札幌へと至る一般国道36号として、若干のルート変更を行いながらも、物流などの様々な経済活動及び観光、救急医療などの生活活動を支えています。

現在北海道開発局では、函館市付近の慢性的な渋滞を緩和するため、函館市～七飯町間をバイパスする函館新道の工事を順調に進めており、先頃(平成13年3月24日)自動車専用道路部の全区間約11km(暫定2車線)の供用が実現したところです。

この他にも現道を拡幅したり、バイパスの整備を行ったりと、北海道民の様々な活動のツールとしての道路整備を続けていきます。

(参考文献)
○開拓使事業報告
○「新道開鑿報告書材料諸帳簿抜書」
(開拓使事業報告原稿所収)
○北海道道史

4月1日から北海道開発局の情報公開がスタートしました

行政機関の保有する情報の公開に関する法律(情報公開法)が4月1日に施行されました。北海道開発局では、第一合同庁舎14階に「閲覧室」を設け、開示請求を受け付けています。

開示請求される場合は、開示請求書に必要事項を記載し、開示請求手数料(請求1件につき300円)分の収入印紙を貼って、直接受付窓口を持ってきていただくか、郵送していただくこととなります。

受付窓口及び各開発建設部には、情報公開のパンフレットや開示請求書の記入要領を置いてありますので、ぜひ一度御覧ください。受付窓口の場所及び開設時間は下記のとおりです。

住所 〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎(14F北側)
北海道開発局開発管理部総務課閲覧室 電話011-700-5672(直通)
開設時間 平日8:30~12:00及び13:00~17:00
(土曜・日曜・祝日・年末年始はお休みです)

なお、行政文書ファイル管理簿は、国土交通省のホームページでご覧になれます。
アドレス http://bunshox.mlit.go.jp/GYAP/GY/og_prc_dsp_searchdsp



ピックアップ Pickup

小形無人ヘリコプターによる 情報収集システムを導入

～危険区域内の被災状況を調査するために～

北海道開発局では、「平成12年有珠山噴火」の経験を踏まえ、危険区域内等での被災状況を調査するための小形無人ヘリコプターによる情報収集システムを導入しました。これは、①小形無人ヘリコプター、②画像収集装置、③移動操作車からなるシステムで、ヘリコプターを無線遠隔操作することにより、人が立ち入ることのできない危険箇所での画像等の災害情報の収集が可能となります。

小形無人ヘリコプターは、定点で正確にホバリングする機能を有しており、安定した画像収集が可能です。また、安全性を考慮し、万一、遠隔操作の電波が途絶えた場合は、自動的に帰還するシステムとなっています。

今後は、有珠山火口のような危険区域内における情報収集や比較的低高度からの調査に役立てて行く予定です。



外国人の視点から見た北海道の国際化

～在札幌オーストラリア領事をお招きして～

平成13年3月14日、北海道開発局に在札幌オーストラリア領事館デビソン領事をお招きして、「北海道の国際化の課題」について御講演いただきました。デビソン領事は、関西での留学・就職経験があり、現在はオーストラリアと北海道の交流の促進につとめておられます。当日は、当局職員のほか北海道経済産業局、道庁、札幌市などの関係者も出席しました。領事は、外国人であることを感じさせない、美しく丁寧な日本語で、「北海道は、自然・食材などどこにも負けない魅力的な地域資源を持っている」と高く評価される一方、外国人に対する国際感覚が、「関西はオープンで、北海道は保守的な社会」とであると指摘もされました。講演後は、領事と会場の出席者として活発な意見交換が行われ、大変充実した1日となりました。



えぞためき

道民の夢を乗せ札幌ドームが2日オープンした。今なお景気が低迷する中であって、この施設が景気回復の起爆剤になることを願いたい。

さて、初夏の札幌を華やかに彩る「よさこいソーラン」。その熱風が街を駆け抜けるともう夏本番、本格的なアウトドアシーズンを迎える。ドームのオープンで余暇活動の選択肢は増えたが、北海道の短い夏を謳歌するにはやはりアウトドア活動。

我が家のこの夏はといえば…。定番メニューであるオートキャンプでもと計画はしたが、意中のキャンプ場はすでに満員止り。やむなく札幌ドームで野球観戦を思いつくもチケットの入手が甚だ難しい。懐豊かになればと思いつつ、「toto」で千金を狙うが結果はため息だけ。結局、行き着くところは、毎年の恒例行事。家族で菜園づくりと浜辺での焼き肉。子供達とは言えばTVゲームにプラス「宿題」のおまけ付き?

この夏も「晴耕雨読」と決め込もうか。子供達の不満そうな顔が浮かぶよね。(お)

北海道は今、自然とどう付き合っていくか、なくてはいけないのかということ、もつともつと考え、記事にして欲しいです。
(上士幌町 K.Yさん)

苦小牧港の歴史をとっても楽しく読みました。近くにいなながら掘込み港とは知りませんでした。
(恵庭市 M.Tさん)

函館新道の緑化について、木々が減ってきている近年の日本にとって、緑を増やすことはとても良いことだと思います。
(旭川市 H.Nさん)

ひろば

「がいほつぐらふ」が
インターネットでもご覧になれます。

北海道開発局のホームページでは、「ほっかいどうがいほつぐらふ」の誌面の一部を掲載しております。掲載している記事は、特集、しごと最前線、事業紹介(17号以降)です。バックナンバーも見る事ができますので、ぜひアクセスしてみてください。



アドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp>

開発カレンダー 2001年 7月~9月

()内は開催地

- | | |
|---|--|
| 7月1日~31日
河川愛護月間 ~7日:川の日~ | 7月27日
食とくらしのシンポジウム「食と教育を考える」
(札幌市 ホテルポールスター札幌) |
| 7月13日~14日
独立行政法人北海道開発土木研究所 一般公開 | 8月1日~31日
道路をまもる月間 ~8日:道の日~ |
| 7月19日
一般国道5号 4車線供用開始 | 8月31日
平成13年度第2回環境セミナー
(札幌第一合同庁舎2階講堂) |
| 7月21日~22日
スカイ・レジャー・ジャパン '01イン石狩
—北海道スカイスポーツフェアイン石狩—
(石狩市)
(本文11ページ参照) | 9月1日 防災の日
9月10日 下水道の日
9月12日~18日
ツール・ド・北海道(道南) |
| 7月21日
北海道 森と湖に親しむついで(三笠市 桂沢ダム)
(そのほか各地のダムでイベント開催) | 9月20日 空の日 |



「北海道開発グラフ」はエコマーク認定の再生紙を使用しています。